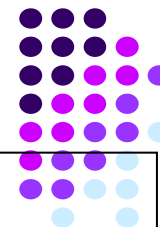


第6回 今後の有料道路のあり方研究会

(1) 平成17年度社会実験の実施状況等

首都高速道路における社会実験の概要



1. 平成17年度料金割引社会実験概要

(1) 実験目的

夜間割引社会実験において一定の効果が確認されたことを踏まえ、割引対象に休日(日曜・祝日)及び平日昼間のオフピーク時間帯を追加することにより、一般道路から首都高速道路への更なる交通転換を図り、一般道路の沿道環境改善、交通混雑緩和効果等を検証するとともに、平日昼間においては、利用時間の変更による首都高速道路の渋滞緩和の効果を検証する。

(2) 実験期間

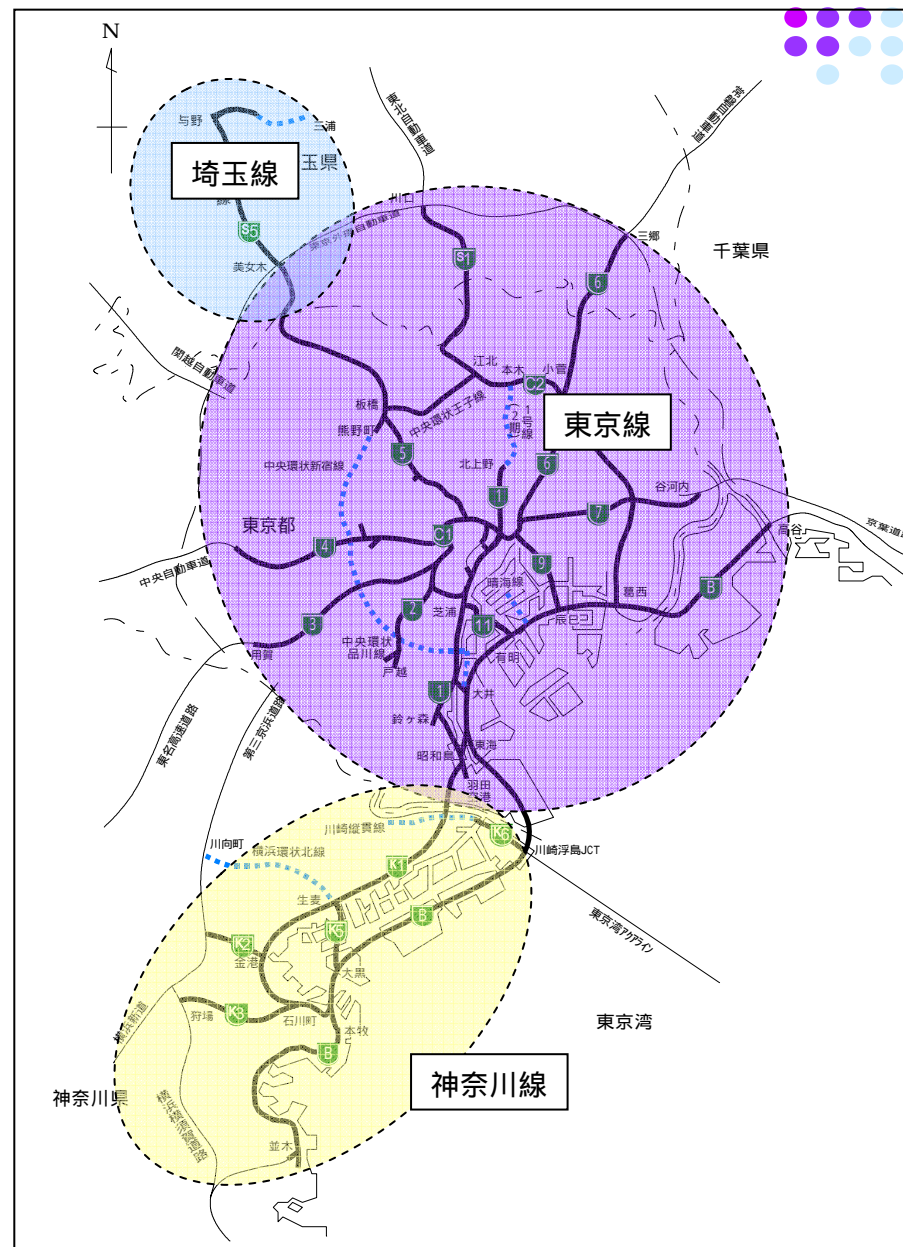
平成17年10月1日(土)0時から
平成18年3月31日(金)24時前まで

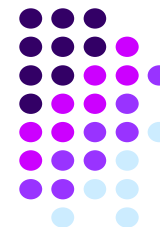
(3) 対象路線

首都高速道路全線

(4) 対象車種

割引時間帯に首都高速道路の料金所を通過したETC無線通行車の全車両





(5) 割引時間及び割引率

今回の社会実験

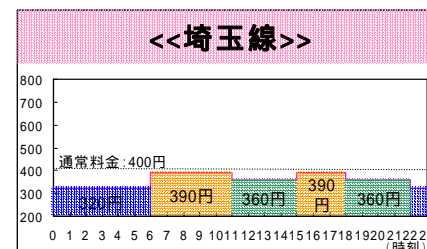
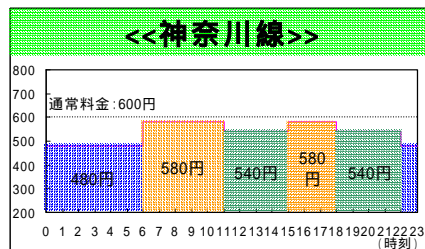
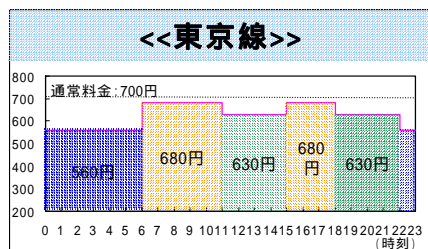
実施期間:平成17年10月1日(土)0:00から平成18年3月31日(金)24:00前まで

割引時間帯:平日(月~土)料金表(割引率)

平日夜間割引(20%引き)

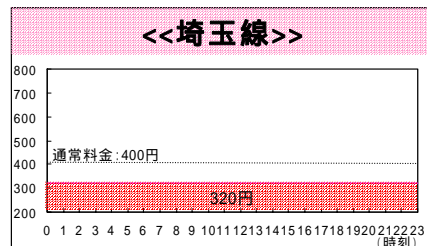
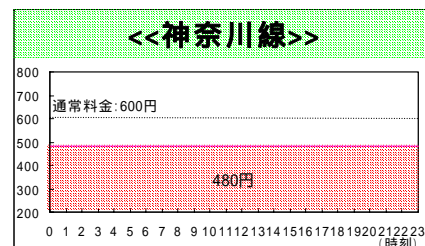
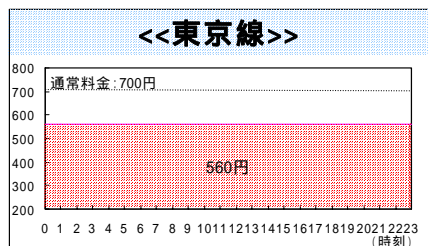
平日オフピーク割引(10%引き)

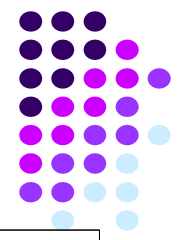
3%オフキャンペーン(3%引き)



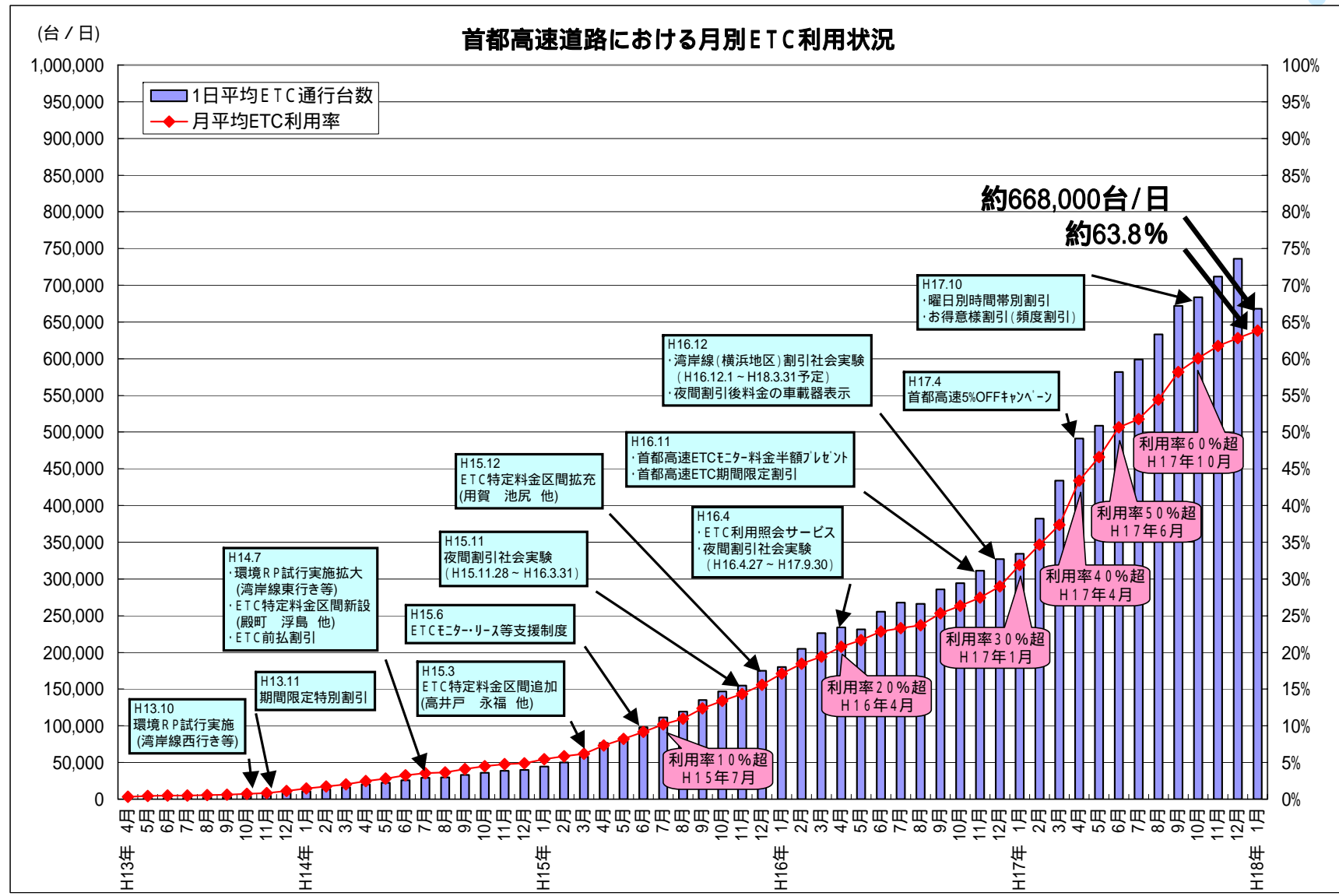
割引時間帯:日曜祝日料金表(割引率)

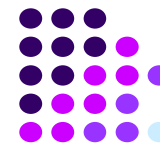
日曜祝日割引(20%引き)





2. 首都高速道路におけるETCの普及状況

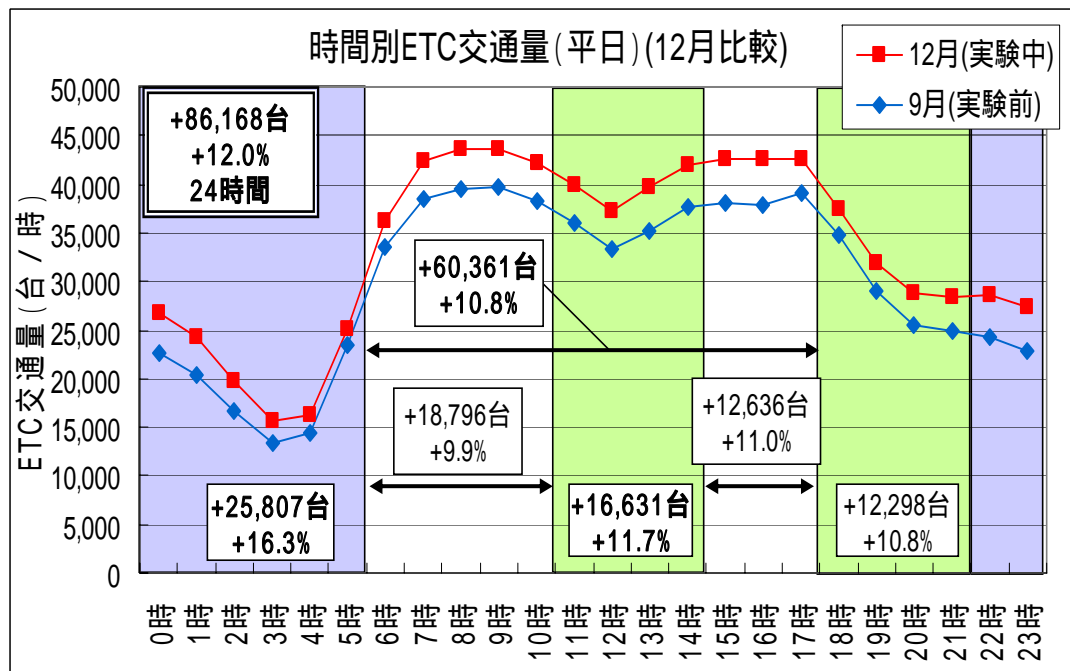




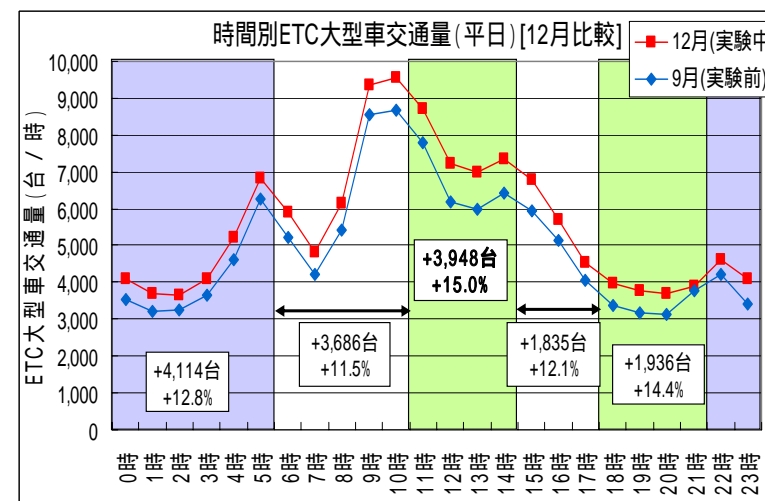
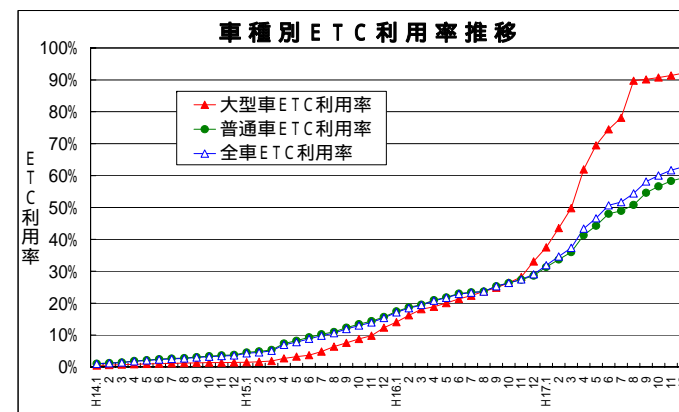
3. 平日のETC交通量の変化(9月(実験前)と12月(実験中)の比較)

平日夜間で引き続きETCの普及や交通転換等によりETC交通量が増加しているとともに、平日昼間の中では昼オフピーク時間帯において比較的ETC交通量の増加割合が大きい。

- ・平日夜間におけるETC交通量増加割合(+16.3%)が、平日昼間(+10.8%)より大きい。
- ・平日昼間の中では、昼オフピーク時間帯のETC交通量増加割合(+11.7%)が最も大きい。
- ・ETCの普及が進んでいる大型車についても、昼オフピーク時間帯のETC交通量増加割合(+15.0%)が最も大きい。



12月は、年末3日間を除いた月～土の平均

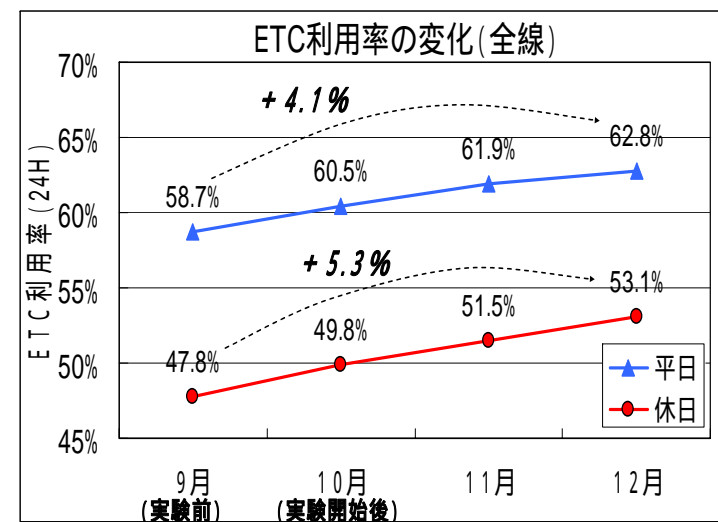
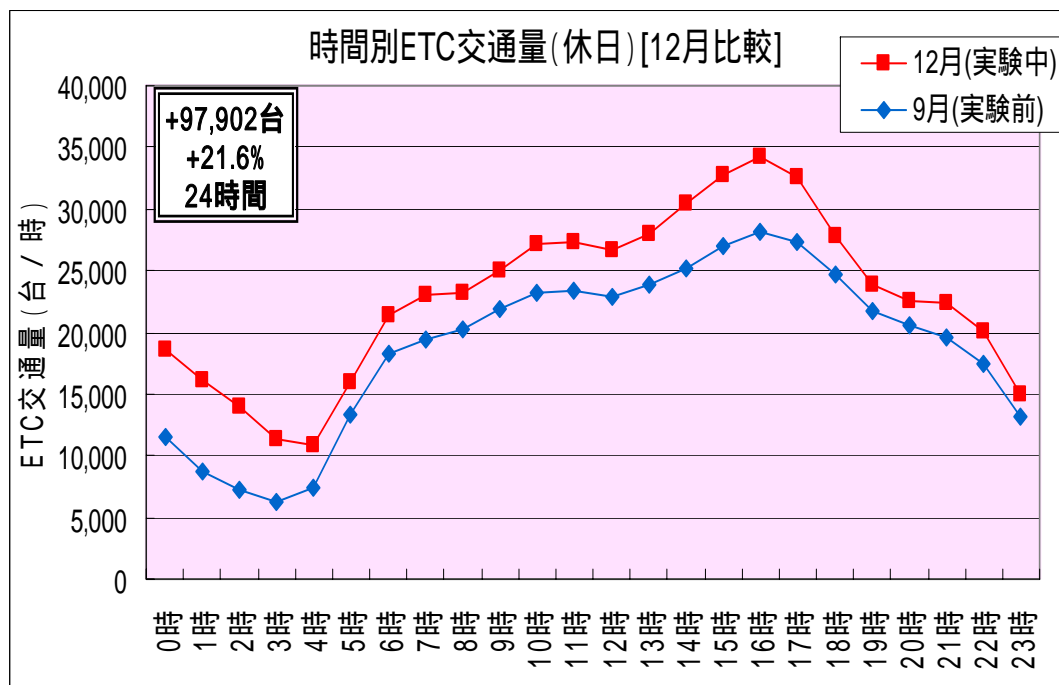


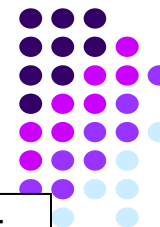


4. 休日のETC交通量の変化(9月(実験前)と12月(実験中)の比較)

休日(日曜祝日)は、平日と比較してETCの普及や交通転換等によるETC交通量の増加が大きく、ETC利用が促進されている。

- ・休日のETC交通量増加割合(+21.6%)が、平日(+12.0%【前頁】)より大きい。
- ・9月から12月までの休日のETC利用率の伸び(+5.3%)が、平日(+4.1%)より大きい。





5. 認知状況

アンケート調査の結果、割引時間帯または割引率など何らかの具体的な内容を知っていた人の割合は、平日オフピーク割引で38%、日曜祝日割引で49%であった。

